

刊夕日八十月十



定額一冊五錢 月五拾錢 郵費五錢
 廣告料五錢 十二字 行金五拾錢
 日曜祭日の日休刊
 發行所 常警日新新聞社
 福島縣平野郡平野町
 電話六二〇
 印刷所 常警日新印刷局
 福島縣平野郡平野町

奇病放線状菌病

三十年前を追憶して

市原 卯太郎

(一) 平町に明治三十五、六年頃検査中久喜正明なる人があつた、此人は警部上りだ、口先の悪い人で酒を嗜んだが口先の悪い人で鬼検事と云はれたけれども、實は善良で涙もろひ人でした。出身は鳥取縣で酒に酔ふと因州稻葉の鳥取でと唄ふのが例でした、生活は極く質素で自分も古服、妻君子供達も奏任官の家族とは見られませんでした、それは東京に在任せらるゝ父其時は八十才以上長兄や弟妹の大家族を仕送らねばならぬ境遇であつたからでせう、長男は十二才、二男は九才、長女は四才、明治三十六七年の頃(目下千葉辯護士事務所に在る小林氏は検事局の書記)で田町の現に私の居る四十六番地にありし磐崎縣時代の官舎たりし小野臺藏氏の妻君の母君の鈴木某氏の家を借家して居られました、其當時に私は警察や裁判所の囑託みないな立場に在り解剖や鑑定等を受持になつて居て中久喜氏や現漆細氏と一緒によく出張

したものでした、其關係で裁判所、警察署の家族まで診察したものです、其頃中久喜氏の二男(八才)が體格も良く頭腦も明敏な兒でしたが段々顔色が悪く胸の邊が腫れて来た、元氣は大した變りはなく食欲は普通だが熱が時々出る様だから診て呉れとの事で診察して見ると胸の中央の骨、胸骨の上三分の一邊が幾分か腫れ上り壓しても格別痛もななく苦痛もない様でしたが顔色は蒼白を帯び呼吸が促迫し體温は三十八度以上で脈搏の多い事は毎時百二十至位でした、そこで種々の手

【朝】みそ汁、じやが芋、わかめ
 【晝】ポークロール、スチュー、豚肉、くり、ねぎ、鹽、胡椒
 【晚】にしめ、はす、里芋
 權威草野萬吉氏も同診断を下されたが創口よりは餘りに少なく殆んど漿液性と少量の血膿のみでした、患者は逐日衰弱微候で其頃私の叔父味岡禮質(元判事)の女婿栗本庸勝氏(本年二月故人となる)が北海道より歸京の途次味岡方に一泊するから來いと通知があつたので之れ幸ひと中久喜氏の二男を連れて栗本氏の診察を受けたのです

潰孔より消息子を入れて見るに眞すぐに肺の方に入るので危険で眞底まで入れて探る氣になれません、そこで其當時泉村の内科の大家と云はれた佐々木源満氏を招き診察を受けた處膿胸ならんと云はれ平町の外科の

氣怪俄に注意未申丑凶
 【一】黒金は手に入り貰ひ物はあると云ふ吉なり只長男長女の怪俄に注意東西凶
 【二】碧金錢問題より目上と争論を起す事あれば謙遜が吉戌亥と辰巳凶【四】運氣滞滯の凶日なれば萬事柔順以て退き守るに吉【五】我が望事に奔走と雖も横やりが出て凶を醸す事あれば猛進凶辰巳と戌亥が凶【六】希望金談に奔走の念起るも急激は凶抄々が吉東西凶【七】赤病氣病難に注意家内に風波を起さぬ様未申丑寅凶【八】失敗の爲我身の法立或は目下の者の法立に心配あり水火の難に注意南北凶【九】紫外見良く内心に苦勞の生ずる事あれば警察裁判に注意南北凶

かまぼこ製造

お茶屋

平町一丁目

不二堂

お惣菜用 さつま揚 吉原揚

電話一四一番

阿部 藥 舖

平・田町(松月堂向)

藥種賣藥、工業藥品
 衛生材料、各種染料
 化粧品、其他

感じの良し！
 客に親切な……

服小倉黒

賣出し

小学生 中学生 小學生
 上等品 中品 特製A
 一圓六十錢 三圓六十錢 三圓五十錢
 紺ヘル 三圓二十錢ヨリ

平町 正札堂洋服店 電話四

平搾乳所

品質第一 電話二六八番 平町・九品寺前

渡部 外科

平町田町大通り(電話二七七番) 入院應需

全外科 醫學博士 渡部 義夫
 小兒科 女 醫 渡部 きい子
 内科

秋!

爽やかな秋の旅を不二の車で
 日光鬼怒温泉附近案内一部差上げます

不二タクシー!

電話 32番

交通量調査

けふから三日間

平土木監督所では本十八日より廿日迄平町一丁目外管内十八ヶ所に於いて一齊に秋期交通量調査を行ふと

設計の意見纏り

小川江改修開始

本年度工費四萬六千餘圓

來月早々着工

既報小川江筋組合の江筋改良工事は一部組合幹部と組合員間に設計案の相違から紛糾を見たが其後縣耕地課の調停で本月下旬には設計完成の豫定なので去る十六日より耕地課の近藤技手が駐在し本年度豫算四萬六千餘圓を以つて十一月初旬より下小川村開場地内より着

資源開發

第一回協議

平町々々調査員會は來る廿四日午前十時より役場會議室に開き資源開發の協議を遂げると

平第二校が壓倒的

成績に依つて優勝

磐女運動會のリレー

既報磐女第二十回陸上大運動會は夜來の雨も晴れて小春日和の昨日午前八時より櫻ヶ丘グラウンドに於て會長正木貞二郎氏の開會の辭に依り競技の幕を切つて落し一般觀衆を熱狂せしめ大會の呼物たる郡下小學校女兒童四百米リレーは新調された優勝旗を巡つて母校の名譽を荷ふ可憐な兒童達がいづれも猛烈な爭奪戦を

たが遂に平第二小學校が壓倒的成績を以て優勝旗を獲得した因に成績は左の如くである

1 平第二チーム (一分零五秒) 2 赤井第二 3 大浦 4 高久

メタル受賞者 別項磐女陸上運動會に於けるメタル受賞者は左の如く各學年對抗の優勝額は同点の二

年及び三年に授與された

(五十米) 二年阿部良枝 (百米) 二年大平久子 (走中跳) 三年田村タキ (四

百米繼走) 三年齊藤ユキ子 石島トミ 柏原和子 山野邊松子

兎皮の販路擴張に

郡農會乘氣となる

石城郡農會では農家副業として年々兎の飼育を奨励して居たが陸軍では兎皮の無制限購入を發表する等益々販路が擴張して來たので毎年一回十一月頃に屠殺して生後十ヶ月以上は飼育して優良な毛皮を供給する様獎勵する事になつた

珍プレーの爆笑裡

何時の間にか本社の勝ち

本社の常磐毎日軍對在平オール記者團の野球試合は昨日午後一時半より平商球場に於いて舉行兩チーム共最初の試合だけに物凄じ意氣込みに珍プレー續出し接戦の場面を展開して人氣を呼び結局七對五のスコアにて何時の間にか本社チームが勝つて仕舞つた

稲を...

共同苜取

泉村組合で

石城郡泉村農事實行組合では來る廿二日午前九時より同村小學校に於いて秋期總會を開き稲の共同苜取に就きて打合せ

陸上競技

兩校の成績

磐中及び平商競技部では既報の如く昨日午前七時より福島市で開催された福島高商主催の第六回北日本中等學校陸上競技大會に出場したが磐中の金成君はコンデーション頗る良く百米、二百米共に大會新記録を出した因に兩校の成績は左の如く總得点磐中が十二点にて第十位、平商が十点にて第十一位である

△百米 1 磐中金成令宣 (十一秒五新記録) 3 平商 齊藤三男 △二百米 1 磐中金成令宣 (二十四秒新記録) △走中跳 1 平商 齊藤三男 (六米三九五)

圖書展學校賞

一及び第三小學校では昨日本縣男子師範學校に於て創立六十週年記念として催された圖書展覽會に出品したが兩校共入賞し學校賞を授與された

中作漁港検査

江名町中ノ作修築工事は昨年度工費に於いて農林省の國庫補助を受けたので同省水産局技師大泉幸作氏は昨十七日縣の山口技手と共に來村十八日は小林平土木監督所長の案内で同漁港の昨年度竣功検査を行つた

平町人事

△搔槌小路中島茂氏長女宏子
△南町二四當時新瀧頭城郡松代村字小屋丸大竹ウラ長女コト
△南町二四片寄虎二氏三女久
△回死 亡
△揚土二六當時千葉縣幕張町武石桑原サク(一ツ)

御用命印刷物の總代理
常磐毎日印刷株式會社
電話 三六〇番



味覺の秋を楽しみ得る
香氣の高い松茸
料理を始めました
出前 迅速
錦水
電四五四

玉屋洋品店
平町田町通電話六五六番

秋...と...カメラ!!!
聞いて...見て...使つて驚く
MS カメラの輕便さ!!!
これでは誰にも良く撮れる筈です
題材豊かな行樂の秋...
今こそカメラ絶好のシーズン
どなたもぜひMSカメラで朗かに
各種カメラ 平 驛 前
特約店 いづみや玩具店
カメラ部

中村齒科醫院
平町 鍛冶町七

泥にうづもれて

本町通り悲鳴

改修方を陳情

平町本町通り側溝工事で掘起した道路が軟弱な處へ最近の降雨続きで泥田の如き様を呈し自動車の運轉に泥土の飛沫が飛びゴム長靴を使用せねば全然通行不可能といつた有様なので本町通りの各大商店は客足が殆んど寄り付かずいづれも悲鳴を擧げ近く代表者が町役場土木監督所に出頭して道路改修の促進方を陳情すべく寄々協議中である

青年分團發會 平町廿八區十五丁目仲町青年分團發會式は去る十七日平署會議室に開き團長に大嶺庫氏副團長 内木宗八氏が推薦された

第三校運動會

既報降雨の爲め中止された平第三小學校の秋季運動會は明日午前八時半より開催する

發芽し始めたので

大急ぎで稻蒱りを

神谷と大浦方面の稻作况

神谷、大浦方面の稻作は早害も少なく増収を見込まれて居た處漸價に刺戟されて晩秋蠶の一方にかゝり切つた家が多く手入れ不十分となり殊に最近では連續的な降雨の爲めぼつ／＼發芽し初めたので品質の低下を怖れ大急ぎで二三日前より刈取を始めた

駒澤大學の

一行愈來る

既報駒澤大學傳道部照心會の佛教講演會は今晚午後六時半より平町青年團後援の下にマルトモホールに於て

柔道昇段

有段者會にて

既報石城柔道有段者審査會は昨日午前九時より警中道場に於て橋本、青天目、齊藤、笠原、鈴木各審査の下に行れたが二段七名、初段

三十二名の内、及び平商に於ける昇段者左の如くである

△二段(警中)阿部文平 遠藤文也△初段(警中)林 武義 白井晃 武藤兼一 小西信正(平商)酒井時寛 佐藤慶三郎 高木吉郎

特高事務講習

堀部本縣特高課長は本十八日午前八時より平署會議室に於いて特高事務に關する講習を行った

校長自身出張して

卒業生の就職開拓

平商業學校では來春三月五年制昇格後第三回目の卒業生約四十名を社會に送り出す事になつたので早くも之等卒業生の就職開拓を斡旋すべく本日京濱方面を始め近縣及び縣内に於ける各有力な炭礦會社商店等に二百五十通の依頼狀を發送したが來月初旬頃よりは矢野校長自身出張して就職開拓の運動を行ふと

一網に二十萬尾

歸港の途中秋刀魚大漁

四倉町漁業家長谷川長八氏所有秋刀魚船稻荷丸は過般宮城縣沖合に出漁中の處秋刀魚群が南下して漁場が本縣沖合に移つた爲め四倉に歸港の途中十七日午後相馬原釜沖合の大群に出會し二十萬尾の漁獲を得四倉に水揚げした

裁判所だより

△既報飯野村大字上荒川字福ノ内一〇九佐藤泉一(三三)が去る六年八月十五日同村役場小使猪狩與之(三三)に情を打ち明け役場の公印を盗用して印鑑證明書を偽造作成し實父専次郎所有の田畑



報豫氣天 今晩も明日も北西の風曇天氣良なる

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間 獨白に依る童話劇「マンダリンの秋」H.K.コドモ會 後六、二五 ことばの講座 「現代國語文に就て」三宅武郎 趣味講演の夕(昔を語る)

後七、三〇 「戊辰の頃の思出」藤澤正啓 後八、〇〇 「維新の京都を回顧して」丹羽圭介 後八、三〇 「薩摩屋敷の焼打と江戸町奉行所引渡の事」原胤昭 後九、〇〇 連續講演「瀧川伴五郎第一席」田邊南龍

明日の部

後九、三〇 時報ニス 氣象通報 番組廣告 前六、三〇 基礎獨語講座 (十五)橋本忠夫 前九、一〇 料理献立「松茸料理」(二)松本良雄 後一〇、三〇 婦人講座 「付向の味ひ方」 叔山 梓月 後一〇、五〇 吹奏樂 戸山 學校軍樂隊 指揮樂長伊藤隆一 後二、〇〇 家庭大學講座 「アルゼンチンの國情」宮澤次郎

後六、〇〇 子供の時間 お話「電氣のめぐみ」伊賀秀雄 後六、二五 英語講座 (二)の六終)勝田孝典 後七、三〇 講演「燃料國策問題と電氣」遞信大臣南弘 後八、〇〇 舞臺劇「青砥稿花紅彩畫」河原崎權十郎一座 長唄はやし連中 柁屋佐藏社中 後八、五〇 俚謠 菅原追水その他 後九、〇〇 連續講演「瀧川伴五郎第二席」田邊南龍

徘徊中に

少年捕る

小名濱町仲町金成疊店徒弟岩手縣水澤町生れ伊藤省一(一)假名は十六日主人の金十圓を窃取して逃走十七日午後八時頃平町南町地内を徘徊中平署員に取押へられた

主家の商品を

盗み蓄めて賣る

親元に歸らうとして

好間村字推木平生れ千葉縣安屋郡館山北條町金物商水島金之助方雇人渡邊藤吉(一)假名は去る八月以來主家の商品を數回にわたつて窃取し夫れを六十餘圓に賣拂つて去る十六日親元へ歸るべく逃走平驛に下車した處を平署員に捕らはれた

平職案紹介所報告

△回人を求める方 △出前持 三十迄 月十圓 以上(湯本町某) △女中 十七才 尋卒 給 料面談(赤井村某) △職工 二十七才 尋五修 給料面談(赤井村某) △土工夫 三十三才 尋卒 給料面談(朝鮮某) △雜夫 二十八才 尋卒 給料面談(平町某) △外交員 二十九才 商卒 給料面談(平町某) △職工 二十七才 尋五修 給料面談(赤井村某)

銘劍秘刃録

【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 書

第六十七回 血に飢ゆる村正

猫の前の鼠同様

小松原の實家へやつて来た次郎吉はさすが良心に恥て暫らく木陰に考へて居たが、此んな事ぢやア往ねえと氣を取り直して

次「今歸つたぜ誰も居ねえのか」
と玄關先に大聲を揚たので有信初め書生も驚き、今歸つたとは誰の事かと出て見ると、厄神同様の次郎吉ゆゑ有信は吃驚いたし



有「兄さん御歸んなさましたか、名主の彦兵衛殿へ寄つてお出でなさいましたか」
次「ナニ何の用があつて彦兵衛の所へ寄るんだ」
有「貴郎は町外の身体ゆゑ此の村へ這入る事は出来ません、夫も名主の彦兵衛殿は伯父なり役柄なりでござ

いますから名主殿へ行つてどうか町外の方を取消してから來なければ道が違ひます」
次「喧しいやい俺の家へ俺が歸つて來るのに不思議があるものか汝は何だ俺の留守に兩親を毒害でもしやアがつて此家を乗つ取りやアがつたな」
有「怪しからん事を仰しやる私は左様な悪行を致

家だ、丸で汝に呉れてやるから五百兩出せ、五百兩が一文飲ても貧乏ゆるぎもするのぢやねえ、夫とも汝達夫婦が出て行くならサツサと出て行け、兄貴が家督を繼ぐに誰が點の打人があるものか」
と玄關先で暴れ廻るに有

信も持て餘し家内の者も何うしたら宜からうと困り切居る所へ早くも誰か名主へ知したと見えて、飛んで参りましたのが名主の彦兵衛でございます、此の人は次郎吉が兩親の生て居る時分から、親父より恐がつて居た人だから、威張つては居たやうなも、彦兵衛の姿を見ると、猫の前へ出た鼠のやうに玄關の隅へ小さくなつて了つた

出しました、年は六十近うございすが、昔堅氣の頑固爺、却々力もあると見えて次郎吉はヒョロ／＼引出されました
彦「次郎吉汝何を此の家へ來て云つて居るのだ、兩親の死水を立派に取つた有信ぢやアねえか、夫に今聞けば此の家を遣はすか五百兩出すかなんぞと法外の事をいやアがつて、サツサと出て行きやアよし長居をする捕縛つて突出すぞ」
次「ヘエ今歸りますからどうぞ御免なすつて下さいまし」
彦「サア歸れ早く歸れ」
と連れ出すのを見て居た有信

有「伯父さん」とは申す者の兄は兄でございすが、どうぞ是を小遣ひに上げて下さいまし」
と二十五兩の金を名主の彦兵衛に渡しました
彦「有信や斯ういふ事をするから此の野郎が癖になつて又來る氣になるのだ、路銀なら二貫もありやア澤山だ、是を仕舞つて錢の二貫もやんなせえ」
次「二貫ぢやア酷い、是から遠い所へ行くのでござい

ますからどうぞ二十五兩下さいまし」
彦「筈棒めえ、遠い所へ行かうが隣り村へ行かうがそんな事に構ふものか、爲にならねえからやらねえ二貫持つて何處かへおつ走つて仕舞へ、二度と再び小松原へ來るな」
と云ひながら二貫の錢を

懐に入れてやり性の附くやうにと拳固をかためて二ツ三ツ殴られたので、さしもの次郎吉もムツとはいたしたたが對手が名主殊に力の三人力もある彦兵衛だから泣き寝入りで次郎吉は這々の態で逃げ出しまして、外に行く所もございませぬゆゑ又鐵藏の家へ歸つて参りました
鐵「どうした次郎、何處へ行つて來た」
次「ヘエ、近所の友達の所へ久しぶりで顔出しをして参りました」
鐵「さうか、大層よい土産を持つて來たな、手前の頭をさすつて見ろい、大分大きくなつたせ」
次「ヘエ、陽氣の故でございませう」
とソコ／＼に二階へ上り寢てしまひました。

夏から秋・冬へ!!!

「衣裳御着替」

特に勉強致します

旭屋 一六銀行

平三丁目 電話四二五番

三井タクシー

平町二丁目 電話六八五番



太陽顔ソー

御存知ですか!

太陽顔ソーの

風味を!!!

一本日質品
太陽顔ソー

是非御試下さい

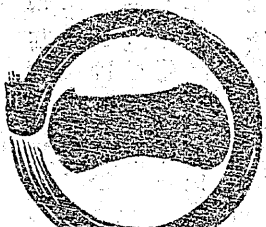
平一丁目(電話三三二番)

小川屋本店

平各販賣店

新

鮭節出賣



魚問屋

店理代平命生本日本大最優最
榮 盛 賀 志
(三一電)目丁四平

科人婦。科外
院醫坂井

町田町平
番九五五話電